

Title	古代槿について
Author(s)	宗田, 克巳
Citation	地球 (1936), 26(1): 12-15
Issue Date	1936-07-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/184579
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

古代槓について

宗田克巳

備中高梁町の西方約二里なる成羽町と云ふ一筋町は周圍に中生代の構造山地を繞らすので早くから地學上名の通つた所である。此の山地には *Pseudomonotis* を藏する砂岩と、多くの植物化石を藏する頁岩又は砂質頁岩とが錯雜した分布をしてゐる。而して此の地の地質構造や化石の方面は多くの學者によつて研べられてゐる。就中化石の方面では植物化石が豊富で、大石學士の如きは熱心な態度で之が研究に當られ次々と新しい種を挙げられるのは欣快である。筆者の茲に云ふ古代槓は未だ同學士も挙げられず、且つ筆者淺學寡聞ではあるが未だ學界に聞かざるもので



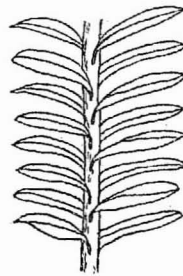
第一圖 *Palaeopodocarpites nariwaensis* Soda ($\frac{2}{3}$ 大)

Palaeopodocarpites Soda, gen. nov. として于に挙げる。

抑も槓 *Podocarpites* の類はもと *Podocarpus* と呼ばれてゐたのであるが、化石命名上途中から改名されたのである。*Podocarpus* は Velenovsky

が Bohemia の Perncer serie から出た線形の葉に對して命じたものであるが、此のものは形態的に判然しとらなんだ。又同じく Podocarpus と呼ばれるものであつて正しく第三紀指示のものと思はれるものもあるので Seward の如きは少し廣く抱括する様な Taxites とか Elatocladus に屬せしめた方がいいことはないかと云つてゐる。

大石學士は成羽から出る Elatocladus を三種記載してゐる。その内二種 *E. tenerima*, *E. plana* は立派な標本で Feismantel 原圖その儘の様である。これ等と余の標本とを比較するに形態的に餘りにも相違の甚だしきことが認められる。



第二圖 dorsiventral
の付き方(略圖)

葉は dorsiventral に二列に並び、形は廣い線形で長さは四〇耗以上もあり、縦には極めて著しい心脈を有する。又 Heer の原圖なる Podocarpites eocaenica の如く鐮狀でない。併し Gardner の Podocarpites Campbelli には可なり近似してゐる。でもこれは少し葉幅が廣く且つ披針形に近付いてゐる。兎も角以上の Podocarpites は化石種としては歐羅巴で第三紀から出てゐるに過ぎない。



第三圖 Palaeop.
nariwaensis
の葉(大)

此の意味に於て筆者は中生代の成羽層から出た特徴ある標本に對して Palaeopodocarpites の名を以つてした。此の種名は成羽を稱揚すべく Palaeopodocarpites nariwaensis Soda sp. nov. とし置く。此の種の特徴は

葉が線形・鈍頭乃至鋭尖頭にして、其の長さ七〇耗に及び幅は四耗半乃至五耗で縦に明らかなる心脈を有し、短い乍ら葉柄が認められ、これが腹背に着き兩側に殆んど對生するが如くである。

此の植物と伴ふものは

Hausmannia dentata Ōishi.

Ctenis japonica Ōishi.

Podozanites lanceolatus (L. and H.)

Cladophlebis raeborskii Zeller

C. nebbensis (Brongn.)

で母岩は大抵砂質頁岩で保存は極めて良好である。

之の産する所は成羽の古町と稱する川北の町から約數町北なる道路沿の枝と云ふ所で、嘗ては炭山が稼掘されて *Ginkgoites* や *Baiera* 等の極めて立派なものが出たのであるが今はその由もない。此の標本は一見極めて新しい時代の如く思はれるが以上の隨伴化石に依つて大體同じ時代と見做していいことは論ずるまでもない。

本稿をものするに當り多大の便宜をお與へ下さつた京都帝大の中村先生に、又教室にあつては八木先生に或は又成羽研究では同地の今・小川・高見君等に深謝の意を表して筆を擱く。

文 献

赤木 健 七萬五千分一岡山圖幅及地質説明書 昭和二年

〃 七萬五千分一府中圖幅及地質説明書 昭和五年

〃 備中成羽附近の三疊紀層に就て 地質學雜誌第三十二卷

大石三郎 備中成羽地方上部三疊紀層に就いて 地質學雜誌第三十八卷

矢部・馬淵 備中成羽地方地質に關する二・三の觀察 地質學雜誌第四十一卷

大石三郎 中生代の植物化石（岩波講座）昭和六年

宗田克巳 成羽の植物相（岡山古地理歴史）昭和十一年

Kawasaki, S.: Some Older Mesozoic Plants in Korea. Bull. Geol. Surv. Korea, 4, Pl. 1 (1924).

Yokoyama, M.: Mesozoic Plants from Negato and Bitchu. Coll. Sci. Imp. Univ. Tokyo, 20, Art. 5 (1905).

Cishi, S.: Rhaetic Plants from the Nariwa District, Prov. Bitchu Japan. Journ. Fac. Sci. Hokkaido Imp.

Univ. Sapporo (1932).

Seward, A.C.: Fossil Plants. vol. IV (1918).

Potonie, H.: Lehrbuch der Palaeobotanik (1921).

福井縣三方郡北西鄉村日向湖附近

温泉の試掘に就いて

上 治 寅 次 郎

一、緒 言

福井縣三方湖附近の地質は渡邊久吉學士の調査報文（地質調査所報告・六三號）があり、筆者も本誌（第九卷・第一號）に之を述べたこともある。其後、日向湖附近を踏査するの機会を得

たるを以て、從來調査されたる區域より北方の地質一般を記し、且つ日向湖附近の地下水の状況について記述する。

日向湖は小濱線に近き海岸にあり、附近には中湖・三方湖・菅湖・久々子湖の五湖沼が切り割